

習近平の中国、トランプの米国

現代中国問題研究家 津上俊哉

- * 明暗ふたつの経済が同居する現状
- * 急拡大するインターネットビジネス
- * 景気刺激で繰り返される巨額投資
- * 投資バブルの裏側で債務が急増
- * 先行き予想されるバランスシート不況
- * 日本のバブル崩壊の流れと同パターンへ
- * 2030年以降は一段と厳しい局面に
- * 習近平政権2期目の課題は何か
- * 資本規制と不動産投機が連関
- * 経済下降でも国際的影響力は上昇続く



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は中国研究家の津上さんに来ていただきました。この倶楽部では2回目でございます。旧通商産業省に入省されて北東アジア課長とか、在中国大使館に勤務されたこともございます。通商産業研究所を経て今は独立して独自の視点で中国研究をされておられます。

中国についてはいろいろな情報が飛び交っておりまして、少しバブル的になっているという見方もございます。その一方で、たいへんな債務が積み上がっているということで、どういふふうに読むか、今日は経済的な側面から綿密に分析をしていただきます。それから、米中間係ということ、北朝鮮を挟んだ今後の展開についても触れられるということでございます。

それでは津上さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

津上 皆様こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました津上でございます。この会には前にも一回呼んでいただいたことがあります。また呼んでいただきましてありがとうございます。今ご紹介がありましたとおり、私はもともと中国経済屋でございますので、中国経済が今どういう状況にあるかという話を中心にさせていただきますが、それと同時に、実は中国って政治が普通の国以上に物を言う国なものですから、この何年か中国の政治をよくわからなければいけないなというふうに心がけておりました。そうすると今度はアメリカとの関係を勉強しないとよくわからんということになりました、ト